

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2	実施クラス	1年 6組
単元名	市場機構と政府の役割 ①市場経済のしくみ						

1. 授業（単元）で扱う目標・内容について

①本授業の目標（能力向上をねらいとする）Step を 、特にねらいとするものを で示しています。

Step	発想	課題・仮説設定	調査・実験計画	データ取得・処理	研究遂行,考察	表現・発表
6	複数の考えを組合せながら、自分の発想を再考し、新しい価値を生み出すことができる。	実験・調査結果から新しい課題を見つけ、仮説を設定することができる。	課題や期間に合わせた、適切な実験・調査計画を立案することができる。	与えられたデータを統計的に分析し、分析結果を言語化できる。	必要に応じて外部と協力しながら研究ができる。	グローバルに発信・発表ができる。
5	他者とアイデアを討論し、より良いものにしていくことができる。	仮説が適当なものであるかを判断することができる。	先行研究を参考に、新たな見解や視点を見いだすことができる。	課題を検証するための、データの取得・分析方法を検討することができる。	課題を解決するために、仮説⇒検証を繰り返すことができる。	論理的に矛盾のない文章が書ける。論文の執筆ができる。
4	知見・知識を統合して、アイデアを見いだすことができる。	疑問に対して仮説を設定することができる。	課題に対する先行研究の調査を行うことができる。	与えられたデータの代表値、分散、相関係数等を調べられる。	得られた結果と仮説が対応するかしないかを正しく判断できる。	スライド・ポスター等を使って発表することができる。
3	身の回りの現象について自分の興味のあることを調べることができる。	調べた結果に、新たな疑問を持つ。	仮説を検証するための手段・機材を検討することができる。	実験・調査を再現できるように研究記録を正確に取ることができる。	実験・調査の条件を再検討し、調整する事ができる。	スライド、ポスター等の発表資料を作成することができる。
2	身の回りの様々な現象を比較して、違いを見つけることができる。	書籍やインターネットを用いて疑問について調べることができる。	基本的な実験・調査技術を習得している。器具、操作の原理を理解している。	主張したい事柄に応じて適切なグラフを選択できる。	実験・調査の結果から何がわかったのかを理解することができる。	自分の意見や考えを、レポート等にまとめることができる。
1	日常の様々な出来事に興味を持ち、対象をよく観察することができる。	様々な現象に疑問を持つことができる。	実験・調査の手順を理解している。実験の結果を正しく読み取ることができる。	グラフの読み取りができる。数値とグラフの種類が与えられれば、書くことができる。	計画に基づき、手順通りに実験・調査を行うことができる。	自分の意見を持ち、失敗を恐れずに表現できる。

②本授業（単元）で習得すべき内容

製品の価格と数量の資料から、需給曲線がどのように変化したかを表し、それをレポートにまとめる。
--

2. 1の目標・内容を達成できたかを判断する「規準」と「方法」

規準： 思考・判断・表現、資料活用 of 技能 方法： ワークシート、レポートの記述

3. 具体的な授業におけるチャレンジ（教材・発問・学習活動・めあて・ふりかえりなど）

- 製品の価格と数量の資料を読み取ることができる。 - 資料から需給曲線を描き、その移動をグループで考察することができる。 - 考察した需給曲線の移動について、レポートにまとめることができる。
--

4. 授業の展開

時間	学習内容と活動		指導上の留意点・評価
導入 5分	・ 本時のテーマの確認	・ 需給曲線の移動について確認し、その応用が本時のテーマであることを理解する。	
展開 30分	・ 資料を読み取り ・ 需給曲線を描き、その移動を考察する ・ グループで共有した内容の発表	・ 薄型テレビの価格指数と保有数量の資料を読み取る。 ・ 資料から読み取れたことから、需給曲線を描き、移動を考察する。その後、グループで共有する。 ・ グループ内で共有した需給曲線の移動をいくつかのグループが発表する。	・ 価格指数と保有数量について説明する。 ○薄型テレビの価格指数と保有数量の資料を読み取ることができる。 【資料活用 of 技能】 ・ 4人組のグループを作らせる。 ・ グループワークの際、意見が出にくい班は、机間指導で意見が出るように促す。 ・ まなボードをグループごとに配布する。 ・ 需給曲線のどの曲線が、どのように移動したかを個人で考え、その後グループで共有させる。共有後、グループの意見をまなボードに表す。 ○資料から需給曲線を描き、その移動を考察できる。【思考・判断・表現】 ・ まなボードを黒板に貼り、いくつかのグループに発表させる。
まとめ 5分	・ 本時の振り返り ・ レポート記述	・ 考察した需給曲線の移動について、レポートにまとめる。(200字以内)	○考察した需給曲線の移動について、レポートにまとめることができる。【思考・判断・表現】

5. 授業プリント等

テレビの市場を見てみよう

～需給曲線を使い、実際の市場をモデル化しよう～

組（ ） 番号（ ） 氏名（ ）

以下の表は、2005 年から 2010 年にかけての日本における薄型テレビの価格指数と 100 世帯当たり保有数量をまとめたものである。この表を見て、下の設問に答えよう。

＊薄型テレビの価格指数とは、同じ画面の大きさで機能を持つ薄型テレビの各年の価格を 2005 年の価格を 100 として表したものである。100 世帯当たり保有数量とは、調査対象世帯における薄型テレビの保有台数を調査し、100 世帯当たり何台の薄型テレビが保有されているかを推定したものである。

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010
薄型テレビの価格指数(年平均)	100	74.4	58.3	46.1	32.7	22.4
100 世帯当たり保有数量(台)	14.2	23.9	37.4	58.6	78.5	108.5

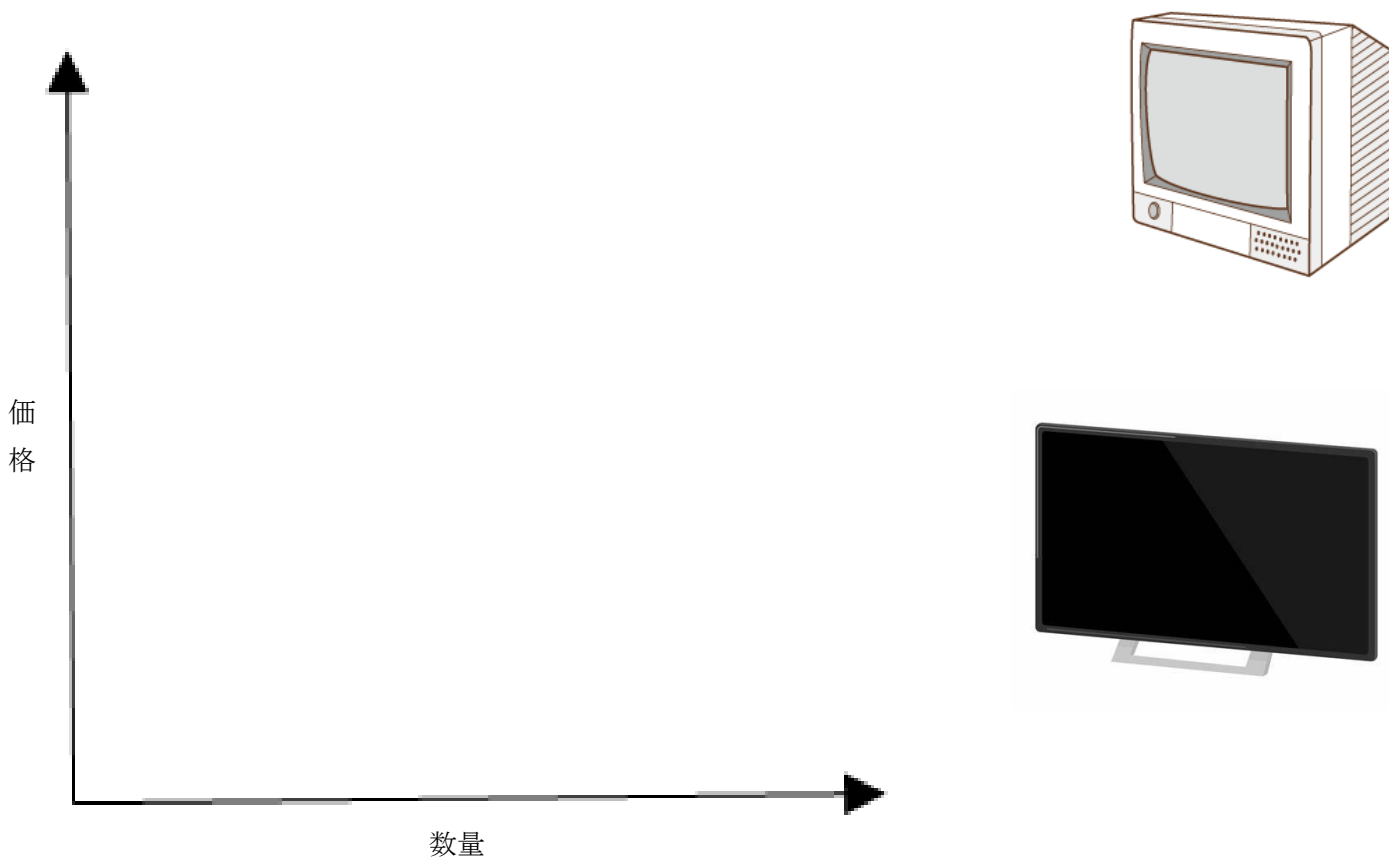
資料：総務省『消費者物価指数』、内閣府『消費動向調査』

問 1. 資料から読み取れる 2005～2010 年の価格指数と保有数量の変化を答えよう。

問 2. 下記の手順に従い、右のグラフに需給曲線を描いてみよう。

手順① 薄型テレビの価格弾力性を考察し、需要曲線と供給曲線をそれぞれ描いてみよう。

手順② 2011 年 7 月 24 日の地上アナログ波の送信中止は、地上デジタル波の受信機能を持たないブラウン管テレビから地上デジタル波の受信機能を持つ薄型テレビへの買い替えをうながしたといわれている。需要曲線と供給曲線のどちらかだけが動くことで 2005 年から 2010 年にかけての変化が起こったと仮定し、需要曲線と供給曲線のどちらがどのように動いたか、需給曲線のグラフで表してみよう。



問 4. 問 1. 2 の内容をふまえ、2005 年から 2010 年にかけての薄型テレビの市場の変化を説明しよう。そのうえで需要曲線か供給曲線のどちらかだけが動くとして仮定した場合、動いた原因として最も重要だと考えられるものを述べてみよう。(200 字以内)
